



可般圖

一番

丸

芭蕉

古池や蛙飛びこころの如き

右

仙化

いけのほとりには又厚葉の

草のいかりの音を何れも設

しつりし四よりのとて成る

一巻の巻のいかりの音の下

寶英文庫

にかくの品をの〜の〜
まぶ。は魚〜！

才二番

丸 勝

素堂

西乃蛙 色るにあると色也

丸

文麟

泥龜と門をぶら下る蛙哉

小田乃瓶才よりくゆ色と

よりりる下雨のかさつと色

さくち 然泥乃神いり力を

よ〜し〜く 不才の才哉樂い

ゆる龜乃隣のかさつ形ん

門を並ぶゆとさくれを白

さ〜のさついおれと丸乃

蛙乃底る信りい勢も

ゆる

才三番

丸 勝

嵐蘭

うろく〜と我類さか物か

右

孤屋

人の心を鳴らすと教の蛙か

た中なり七文字の強き也

以て五文字の道はゆるく形なり

うねる面戸は白く白くオホのふ

中には白く白くうねるうねる哉

ふらふらひらひらうねるの文字と

いさむらひひらひらひらひらひらひら

いさむらひひらひらひらひらひらひら

尔が侍ん右足音をこぼる物
志は何時までかぬか面白く
侍りりねたの万務也

中四番

七持

つね

翠紅

木のりの櫃はあまの蛙か

七

濁子

毒員く州はかく向蛙か

飛く蛙は其足の色を

二
心はたかくしむる人
乃心はたかくしむる人
まじやけさるる人
さうしむる人
それつれなきか
か

才五番

九

李下

裏さうしむる人
見ら

去来
あ 勝

去来

一 睡をて
あ 蛙

花乃白雲
水鶏
早苗の
簀
や
松意
あ
長是群蛙
苦相混
有時也
作

不平鳴とていふ白濁なるは
る力と一掃

才六番

花持

友五

鈴とるくわんくふ体じ驛哉

志

瑛樹

まのまの牛よあひる蛙也

ちり書たきりよ程給乃

之海の蛙心けりらとてく

物うに移さり形ん中感左
しとちりしはあし角あはし
とそと力をかたしあはしと
ふのふをさししく云叶句
らねり野徑乃かゝる眼
奇し可わ持

才七番

花

朱絃

備いつく入おのりり亦淋

詩

勝

紅林

いへ道やまの料し入蛙
雨乃後の入おをすう僧
寺よりかへりたに於い
寂しくつしゆきと何
の料し入つるこ心と先
しゆ玉針もちをみえ
此方よりと心せうに
才八番

丸

芳堂

夕影や鏡はなを夜よか蛙

丸勝

扇雪

猿乃念佛くしうかろふ

花田ものかろはくもふ
うけく動はちまうへう
大に氣色はとあゆ
右思ひいふもか勝をせめ
念佛くしう草庵の身

む殊勝し

才九番

九勝

琴風

夕月夜野より若を干し

七

水友

飛うつつ猫之追ひ不埒真

夕月夜野より若を干し

叶ひ侍る志持うつらあ

時付白物に云ふ秋に

マ小のかく丸合行は

まの来りては名所と

尸法ん用寒乃地を

いひむはる一白あ

か(さう)に工業乃強

弱をともはたのち

才十番

九

徒南

あはれこの音え頼ら

右 勝

枳風

名もは 蛸 けふも 寛うり

半、檐、疎、雨、作、愁、蝶、鳴、蛙、似

與、幽、人、語、好、く、と、時、は

あ、く、海、の、こ、も、た、け、荷、換、あ、く

魚、り、好、く、と、一、白、あ、く、海、を

く、く、云、深、の、あ、く、は、思、ひ、道

竹、を、か、つ、る、あ、く、五、文、字、あ、く、乃

云、流、一、慈、鎮、西、行、の、口、實

中、河、之、海、の、旅、の、一、こ

り、好、く、と、あ、く、乃

中十一番

丸

全峰

飛、の、く、く、海、の、旅、の、一、こ

右 勝

流水

深、か、く、流、の、深、を、覗、く、蛙、の

海、來、つ、て、幽、地、よ、く、く、り、蛙

同、く、日、一、足、獨、舉、静、は、

く寒葦^イ中^イ軽か公衆^ハ！
い外^ハ鷺^ハ危^ハく^ハ日^ハ予^ハ人^ハ身^ハ向^ハ
つ^ハ潔^ハ白^ハ中^ハほ^ハる^ハ風^ハ真^ハを
要^ハせ^ハし^ハ只^ハ魚^ハを^ハう^ハや^ハ心^ハ有^ハ
とは^ハ争^ハひ^ハや^ハ身^ハ困^ハ中^ハ一^ハ意^ハ
く^ハ心^ハ正^ハ人^ハを^ハ云^ハの^ハ潔^ハう^ハれ
も^ハ蛙^ハの^ハ志^ハ高^ハ遠^ハも^ハを^ハ
い^ハし^ハし^ハく^ハと^ハと^ハと^ハ見^ハ
解^ハか^ハく^ハ海^ハさ^ハり^ハ行^ハく^ハ！

才十三番

左持

へ^ハう^ハが^ハく^ハや^ハと^ハと^ハれ^ハか^ハく^ハ蛙^ハ

嵐雷

右

破蓋

竹^ハの^ハ真^ハ蛙^ハや^ハし^ハか^ハく^ハあり^ハや

ち^ハか^ハく^ハあり^ハや

才十三番

左持

か^ハく^ハあり^ハや

小親

カウくとも陸中へ柳外

七

二二

多分ふゆ多柳のほろ蛙外

二木乃柳外ひよあひて緑
たの色もさうりたれ先
一本の蛙もた乃枝末は
をりけくとも歌乃と
茶畑うつにうつく遙れる
木末は乃さみ既のゆくと

一多ふゆのゆとかけ
志ほりくを表たのた乃
蛙と樹上よのゆとけく
ゆとくさゆとくゆと
浴ゆとふゆと玉篠もを最
萩のゆとゆとゆとゆと
たを志あてゆとゆと
歌音にうり好むと随ひと
けちちあゆとゆとゆと

此の巻はもと一巻のつら
古今乃等只この巻の
身をもはしきさうく
人をも心くふくち
かた

才十卯番

丸持

ちり

あはれひりけり。流石の蛙か

右

山店

あはれひりけり。流石の蛙か

うす麻乃蛙流又柳
孫楚の糸の糸守り
心句と文むせり
た右とも又勝負とも
才十五支

丸

摘長

葛程一、家多やと海蛙か

右勝

蕉筆

若菜の如くつれづれに流る
丸事可^キ迄^キ辨^ルべしといへ
常^ニありては乃^ニ痛^ムの^所也
侍^ニて^ハ中^ニし^テ可^クあ^らむ^所也
お^のち^ハ持^テ申^スと^ハい^ふ心^筋
や侍^ルん右^ニ流^ルま^はら^はし^め
く^ハい^ふ程^ニは^ハら^はし^め
く可^クあ^らむ^所也

才十六番

九

舉白

運^ルも^ハく^ハ州^ノ背^ヲ色^ハ流^ル蛙^ノカ^ハ...

右勝

評^スも^ハ我^ノ子^ノあ^らむ^所ハ^ハ蛙^ノカ^ハ...

州^ノ背^ヲ強^ク流^ル蛙^ノの^け...

あ^らむ^所ハ^ハい^ふ程^ニは^ハら^はし^め...

我^ノ子^ノあ^らむ^所ハ^ハ又^ハ母^ノの^け...

魚^ノり^あら^む所^ハい^ふ程^ニは^ハら^はし^め...

を^ハい^ふ程^ニは^ハら^はし^めハ^ハ母^ノ...

とく〜睡里乳燕哺ホ鳥

この蝶〜とて之の所あり

風流乃幼〜とて風流

實ありを惜〜とて

才十七番

丸持

宗派

ちねむを味手上下の蛙

七

嵐竹

朝暈や一るにつけある 桂小

飛毛を遊入世とのりつ

閑人の名もか叶へるもの歎

朝暈に刈りあはれ

汐染志くけの蛙幾行の

鳴きこもつらん又捨り

才十八番

丸持

杉風

山井之墨のたれもよ及陸

七

蚊足

尾らあさくさく鳴りの蛙

山井の蛙臺のたけ

くまねの心もく

一も表のく

のいへ山井のあり

なとのあすまひも

くすむもあすまひ

さいの松よかん

るくく

物くさねく

物くす物乃外

る所あらん

小田乃水

やう持

あんと飛

のや

時

あ持

才十九番

才 勝

誰を以て人跡くらひ蛙

才

下宅 峽水

約はくも河にりりり蛙

以番を判者扱ふとも由連

日を倦く物を忘ゆ

けり 仍て以判詞不審

たうらぬ

才九番

才

うたのら舞のなき青も雨長

才

中角

うがし 蛙の江に星の夜

うたのら舞のなき青も雨長

なをわをうらふ州の夜

のよのよのし 満をほ

長なり とうのの文字

色はるるくかきり形は情
けふはみみ人の妙こちら
まよひまよひのちのちの餘
月おと江のまよひの
寒く星の影ひのく
て色くに蛙の鳴出ぬ
艶ふるまふに物は
青州池塘處に蛙約あつて
まよひの半夜をさるる

ける夜は気色ともは依ら
多着所ありあふ九章の
塔の上より亦一雙加
ふはるる

追加

鹿島より詣り
志間乃継

継橋乃栗内麩之毛蛙不卜

5.000

頃白會深川芭蕉菴
群蟻鳴向以衆議利句
馳虎聲青蟻堂仙化子

撰馬

芭蕉自序

芭蕉自序

貞享三丙寅歲閏三月日

前草屋町西村梅風軒刻

芭蕉翁門他書目錄

子卯之里	其角輯	二冊	丙寅記	凡瀑集	一冊
續みり之里	日輯	二冊	新の家	其角輯	一冊
花法見	日輯	二冊	續花法見	湖十輯	二冊
楚衣袋	嵐雪輯	二冊	去乃日	越人	一冊
蛙の少少	芭蕉其角 素堂仙化輯	一冊	柿 庭	宗瑞 咫尺	一冊
新二百款	其角輯	一冊	長樂寺千句	大石	一冊
皮翁招	涼危輯	二冊	千載堂百仙集	大石	一冊
挑諧小傘	初心仕極 調宝松子象集記	一冊	俳諧著錄目錄		一冊

蛙

合

